

◆◆実証的なレポートの典型的な構成と注意事項◆◆

◇典型的な構成（西澤「戸塚」論文参照）

1. はじめに

- 「なぜ」という問題規定文で始める。
- なぜその問題が重要なのか。この論文を読む価値があるのかを読者に説得。

2. 仮説

- 検討されるべき命題（「○○は××である。」）を明記。
- 「命題」で示されたことが「なぜ」起こるのか。この「なぜ」に対する理論的な説明が仮説。なお、「なぜ」に対する回答は一つとは限らない。
- それぞれ「○○説」と、仮説一つひとつに名前を付けるとわかりやすい。
- モデル図を活用すること。ただし、メカニズムの説明をきちんと文章で行う。モデル図はその補助にすぎない。

3. 実証

- 実証方法について（データと作業定義。ただし、主たる変数以外の作業定義は注・補遺に回す）
- データの出展・入手先の明記
- 分析結果

4. 分析結果についての考察

- 表のどの数値（あるいは、どの数値とどの数値の比較）から、どのような結論が導き出されるかを、わかりやすく文章で説明

5. まとめ

- 議論の要約
- 発見・反省・今後の課題
- 普遍化 — 政治学のより一般的・普遍的な課題と、当該の研究の関係について、など

◇モデル図について

- メカニズムの説明（矢印）が重要
- 因果関係が逆になっていないか
- 「統計手法は因果関係を裏付けない。関連性の強さだけを検証する。」

◇表

- SPSSの出力そのままは、認めない
- 度数ではなく、パーセント値を表記
- 期待値は、表記する必要ない
- 表題、データの出典の明記
- 100% (N) の表記
- インク・レイシオ（data ink ratio）に配慮
- 危険率の書き方「有意/有意でない」の二分法でない
- カイ二乗値（ピアソンだけでよい）とその危険率を報告

◇その他

- ・セクションを設け、セクションタイトルを書く
- ・TSにアンダーライン（この意味の分からない人は木下を読むこと。）
- ・SPSSの変数名は、文中では意味がない
- ・引用文献の明記（本文中に、・・・（西澤 2002, 15）。そして最後に文献リスト。）
- ・シンタックスを補遺として掲載
- ・「再現性」の担保

実証研究のひとつの重要な要件として、同じ分析を読者が再現できるように、その手順についての必要な情報が明記されているかということがある。その基準に照らして、レポート全体を点検すること。